

薬の伝言板



～抗菌薬を次世代に残すために知っておいてほしいこと～

No.320 2024年7月
丸子中央病院 薬局

抗菌薬とは「細菌」を壊したり、増えるのを抑えたりする薬のことを指します。コロナウイルスのような「ウイルス」に対する効果はありません。この「細菌」にはいろいろな種類があり、それぞれの「細菌」の治療に必要な抗菌薬は異なります。

例えば、

膀胱炎 の主な原因は、 **『大腸菌*』** という「細菌」によるものが多いとされます。

そのため、医師は『大腸菌』をやっつけるための抗菌薬を処方します。

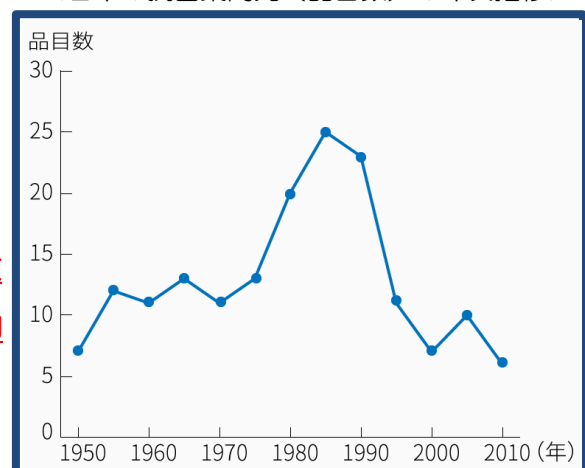
※この大腸菌は、食中毒の原因とされるO-157とは違う種類の大腸菌です。

このように抗菌薬が処方される時には、医師は感染症の原因を何らかの「細菌」と推定しています。「細菌」が抗菌薬に効く状態、つまり耐性を持たない状態であれば、細菌感染症に対して抗菌薬は効果的であると言えます。

しかし近年、**従来の抗菌薬が効かない薬剤耐性を持つ細菌が世界中で増えてきています**。感染症治療のために抗菌薬が使われるようになると、細菌はなんとか生き延びる方法を考え、新たな耐性菌が生み出されます。さらに新しい抗菌薬が開発されると、それに耐性を持つ菌が生じる、といったことが繰り返され、画期的な抗菌薬を開発することは大変な難しさがあるのです。

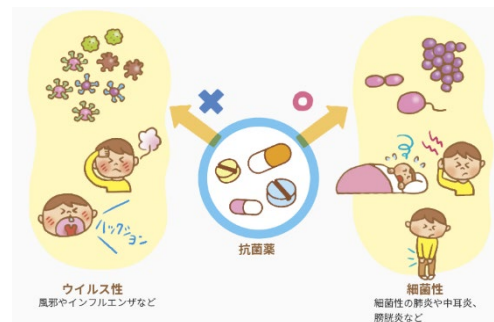
菌の薬剤耐性化がすすむ一方、抗菌薬の開発が停滞すると、耐性菌による感染症にかかった場合に、治療が大変難しい状況になります。政府や企業が連携して新規抗菌薬の開発に取り組んでいますが、私たちも**抗菌薬を正しく使うことにより、現在使える抗菌薬を温存し、長く使えるようにすることが大切なのです。**

＜日本の抗菌薬開発（品目数）の年次推移＞



◎『風邪』に抗菌薬は効きません。抗菌薬は「ウイルス」を退治できません。

一般的に、『風邪』とは「ウイルス」が原因でいろいろな症状を起こします。この風邪の原因が「ウイルス」、というのが大切なポイントです。「細菌」と「ウイルス」は全く別の病原体なので、抗菌薬は「ウイルス」には効きません。風邪を治すのはあなた自身の免疫力であり、お薬ではありません。



◎処方された抗菌薬は医師の指示通り服用しましょう

これまで抗菌薬をもらった時、指示された通りに最後まで飲みましたか？実はこれはとても大切なことです。症状がある時にだけ飲んだり、早く止めたりするのではなく、しっかり飲み切ることが重要です。またそれぞれの抗菌薬にも特徴があり、1日に1回飲む抗菌薬もあれば、1日に4回飲まないといけない抗菌薬もあります。1日に4回飲む薬を1回だけ飲んで効果は出ないのです。



途中で止めてしまったり、回数を減らして飲んだりするような中途半端な飲み方は、抗菌薬の効果が十分出せずに、治療の失敗へと繋がります。また細菌を抗菌薬の効きにくい形へ変化（耐性化）させてしまうことにもなるため、今後の治療においてもメリットとなることはないのです。

◎もし、副作用が出てしまったら…？

もちろん、抗菌薬は他の薬と同様に副作用が出る場合があります。特に多いのは下痢です。これは病原体だけでなく、腸内の環境を保っている良い細菌も抗菌薬が攻撃してしまうためです。抗菌薬を飲み切りたくても、副作用で飲み続けることをためらうことがあれば、無理せず医師や薬剤師に相談することをお勧めします。

抗菌薬の開発は滞り、使用できる抗菌薬が限られてきています。しかし、耐性菌の出現に歯止めはかかっていません。このままでは感染症に対抗できなくなってしまいます。

ただし耐性菌を生み出さないように私たちにもできることがあります。医師や薬剤師の説明をきちんと聞き、正しく服用しましょう。処方された飲み方を守ることは、あなたの病気を確実に治す他にも、細菌を耐性化させないために、とても重要なことなのです。